

時外新報

從第一號
至第七號

特別
14
696
90



696
90

序例

我
大若朝權歸
皇國之大新局

王政復古の今日に至るまで

天幕更運の機関を以て故に筆を辭職の奉書に就き美し作

慎如の微意を以て故に本編第一號より第七號まで刻倉庫

あり未だ校讎の暇ありて体裁裁當を失ひ記謬を加ふ

今悉く是の如し

詔令本告嚴日方諸書に若し敢て一字を改む

竊せ若し他の街談巷記等書郵信に至るも繁に刪り定

除記敬の簡宜を要し唯印刷の例迅疾に其の隨

得るに隨録を故に歳月節序を追々編定

東京

小寺

大業傳... 其不... 山... 先... 山... 山...

一... 山... 山... 山... 山...

山... 山... 山... 山... 山...

山... 山... 山... 山... 山...

山...

山... 山...

山... 山...

山... 山... 山... 山... 山...

山... 山... 山... 山... 山...

山... 山... 山... 山... 山...

山... 山... 山... 山... 山...

山... 山... 山... 山... 山...

山...

山...

海軍大臣
神田正次郎

○十月廿九日 陸軍大臣 大宮武敏
○十月廿九日 陸軍大臣 大宮武敏
○十月廿九日 陸軍大臣 大宮武敏

○十月廿九日 陸軍大臣 大宮武敏
○十月廿九日 陸軍大臣 大宮武敏
○十月廿九日 陸軍大臣 大宮武敏

内外新報前記第三號

慶應四年癸卯四月十五日

○十月廿九日 陸軍大臣 大宮武敏
○十月廿九日 陸軍大臣 大宮武敏
○十月廿九日 陸軍大臣 大宮武敏

外國交易條約貿易振興の事と督之

軍務事務局

海軍陸軍統帥官制改定案の事と督之

會計事務局

予は賦税金納用及支給事務を管掌するに當りて

刑務事務局

監禁弾劾捕亡刑罰刑律の事と督之

司法事務局

官制改定案の事と督之

徴士員士

徴士

諸藩士より都府有りのとの公議を被りて

徴士之令を以て徴士局の別名を任じたる事

又之を徴士にせらるるの事と徴士局の事

は由らざるを要しなりとの事と徴士局の事

員士

大藩四ヶ所ありて二頁

中藩十ヶ所ありて二頁九萬ありて二頁

小藩一ヶ所ありて二頁

諸藩士のこの撰りたる中へ徴士ありて

則ち徴士官ありて徴士官の事と徴士

の事と徴士官の事と徴士官の事と徴士

令改定案の事

作

尾列藩

四村藩

山列藩

杉田藩

○大和五ヶ所ありて二頁

大和五ヶ所ありて二頁
大和五ヶ所ありて二頁
大和五ヶ所ありて二頁

上意御書付子

昨四日以
練使別紙を呈
御書有之恭候澄然其意を承得と道

皇意之隆蒙御書之由治政の成實難の候事一二月に
不旨直奉一役中直奉迄は古者迄の事不
お母老の事書一五十年各を教示候事依り候事
厚の事書
新書直奉二の取書

四月一日
四月二日
四月三日
四月四日
四月五日
四月六日
四月七日
四月八日
四月九日
四月十日
四月十一日
四月十二日
四月十三日
四月十四日
四月十五日
四月十六日
四月十七日
四月十八日
四月十九日
四月二十日
四月二十一日
四月二十二日
四月二十三日
四月二十四日
四月二十五日
四月二十六日
四月二十七日
四月二十八日
四月二十九日
四月三十日

内外新報 第二號

寛永元年此大行の事
七
夷意隔絶の異言を以て四海の善言を
時勢の利益を以て爲る難く横濱新聞の譯の如きは
省身者たる支那の文遣懐の如きは
社名を以て新聞の海を以て之を譯し如く内外の事
告及の選任轉職等も濃く記載し又舊く異論
異説を以て其の内外新報の題
以て本社日用の信の

新報の達人行の要事
あつた四万の若き者
○四月五日の御書式を
會社執事

家傳一日大石丸仕中... 大雅原... 家傳... 御勅...

北陸道... 官軍... 御勅... 借...

三月... 借... 御勅... 借...

御勅... 借... 御勅... 借...

借... 御勅... 借... 御勅...

御勅... 借... 御勅... 借...

借... 御勅... 借... 御勅...

御勅... 借... 御勅... 借...

借... 御勅... 借... 御勅...

御勅... 借... 御勅... 借...

借... 御勅... 借... 御勅...

○四月三日 出板「ライ」新聞
坂地静海の 交易の盛ん 或大なる益あり
備後と増せり
幕下王と多分 江戸年定 軍隊の坂と坂地
山崎あり せしめしむるあり
三月十日 天保あり 江戸ロンの 軍隊
教覽ありし

橋元貫一譯

○先づ山崎あり 並に
官軍の考まはるるあり 或る説ありし 未詳
○四月二日 諸君おはせり
美濃の二務君あり 廿四日 江戸方 山崎の 申必
銀手物進 江戸方 文銭の 申必 十三日 江戸方
文銭の 申必 八日 文あり

燈油上方 江戸方 申必 一説計 申必 五拾九日 申必
申必 申必 申必 申必 申必 申必 申必 申必 申必 申必
申必 申必 申必 申必 申必 申必 申必 申必 申必 申必

○英和海軍 辭書 砲科 新書 必携 等の 魏漢書
三百年 申必 乱離 紛々 見女 萬家 悲
恩願 志士 為若 死 千古 留 岩 在此 時
川路 頑 氏 齋

○四月十日 山崎あり 申必
今般海 諸道 進軍 あり
朝野 慶老 申必 抗弁 あり 族の 誅戮 あり
敵名 あり 海路 漢 あり 申必 行状 あり
申必 申必 申必 申必 申必 申必 申必 申必 申必 申必
申必 申必 申必 申必 申必 申必 申必 申必 申必 申必

一 櫻。前夜雨。...

○四月七日夜

兼道卷五 作... 櫻... 實曲...

兼道卷六 作... 櫻... 實曲...

兼道卷七 作... 櫻... 實曲...

兼道卷八 作... 櫻... 實曲...

日文言

日文言... 櫻... 實曲...

櫻... 實曲...

櫻... 實曲...

櫻... 實曲...

櫻... 實曲...

櫻... 實曲...

櫻... 實曲...

櫻... 實曲...

櫻... 實曲...

山口運送機分... 石額... 慶邦誠... 謝言

題志... 二荒山... 釋深... 海色... 層...

年比... 古... 後... 謝... 東首...

内知新報第六號... 慶應四年四月十八日

日本... 免許... 日本の政...

横濱... 軍艦... 橋爪...

第一... 船... 所...

諸侯を連合して若家の為り一冤罪を雪ぐん
夜に兵備を成すべし
戸田和光の城に近日本陣勢の為り
あつた
北方の大岩の山を去る
あつた南方の軍勢と指迎も故り合戦なり
○二月廿二日東川堤の年おき城版も作
右件先下りて相成り

内外新報第八號

慶應四年四月廿四日

○京都の書状中本副総督岩倉卿の各局傳
達の御旨書
○日書中少報英地軍艦の元議と我
右二條大政官日記
○三月廿二日東川堤の年おき城版も作
右件先下りて相成り

御免前侍從藤原武朝別後督也

三月廿二日對別候上申達之旨一通

右一通左致各日表申八有九表之旨
公孫上中門寺占通前申表
東條少輔明十位四等兼左近衛少輔
右振河守宮中守中位四等兼左近衛少輔
官軍奉持方より申告之旨申表
勿得下中御門より申告之旨申表

原稿
大若の邊候より申告之旨申表
長正の邊候より申告之旨申表
原稿の邊候より申告之旨申表

會社幹事識

内外新報第九號
慶應四年四月廿六日

注川口

前敵兼近衛方
有
作
忍
可
任

皇朝
將
軍
將
領
官
軍
奉
持
方
申
告
之
旨
申
表

皇朝
將
軍
將
領
官
軍
奉
持
方
申
告
之
旨
申
表
皇朝
將
軍
將
領
官
軍
奉
持
方
申
告
之
旨
申
表

○四月五日壬戌の才
石河の古河に於ては
官軍の勢は
大勢は
古河

○四月八日壬戌
大犯り
古河
古河

井上石見

内外新報第十號

○野州城

野州城の戦い
官軍の勢は
古河
古河

先達 朝廷より御書ありて是れを奉りて御書に
自らは御書に御書ありて御書に御書ありて御書に
御書に御書ありて御書に御書ありて御書に御書に
御書に御書ありて御書に御書ありて御書に御書に
御書に御書ありて御書に御書ありて御書に御書に
御書に御書ありて御書に御書ありて御書に御書に
御書に御書ありて御書に御書ありて御書に御書に
御書に御書ありて御書に御書ありて御書に御書に
御書に御書ありて御書に御書ありて御書に御書に
御書に御書ありて御書に御書ありて御書に御書に

○太政官日記 五十六日
○大官日記 五十六日
○大官日記 五十六日
○大官日記 五十六日
○大官日記 五十六日
○大官日記 五十六日
○大官日記 五十六日
○大官日記 五十六日
○大官日記 五十六日
○大官日記 五十六日

○公私雜報第一号第二号發兌せり
○内外新報前記進呈刊成
○京都官報紙三卷小山戦後新報の第一号土曜記
載も明日刊行せり

○内外新報第土曜 慶應四年閏四月三日

- 一 栗橋園中田東も古河の兵團の川中へ私よく左軍方
あり
- 一 利根川上船身場と忍の船園あり
- 一 日新川船三里の船と栗橋川へ私をしりりし
栗橋船より楢畑上りり、市中のこらば立去りり左軍
方より十紙由
- 一 四月十二日小山船より戦争あり、左軍名橋船より引
返り中
- 一 四月十七日小山船より指をふりて戦争あり、本以より
立場人ありやあり
- 十九日夜戦後田の常名差井より浪流の兵隊凡千
七八百人回ると津支と松浦に打戦しり、鳴りては是れ

のえき、年終迄は松林のえき二百人申が浪板も是より上
田のえき二百人申より上田のえきより尾張由人故二百人申一尺
文中の津浜のえき并山禁より新関ニテ亦お建はし
○四月廿日、津官名の乗付書

十九日、津官大名合戦あり、市中八分、面う、院をらふ
十日、朝日新島城脱走の方、百人計り、城へのり入り、日の巻の
旗、東照神居の旗、数十、おかし、之、初、合戦、
西に脱走の方、勝利、五百人計り、壬生、城、合、合、あり、
十日、壬生石橋迄、との、い、安、塚、の、お、と、申、す、く、合、戦、お
し、
十日、於、壬、生、石、橋、迄、逃、れ、去、り、打、ま、て、お、き、古、河、の、方、河、内、
十日、寅、宿、合、戦、脱、走、の、方、勝、利、人、数、幾、多、人、有、之、合、戦、一、
お、ま、り、り、所、り、お、り、り、あ、り、と、お、り、り、お、り、り、お、り、り、
○年、尾、を、里、塚、弁、札、と、写

近藤 勇

右、元、東、海、浪、の、事、の、い、て、初、め、其、系、新、撰、他、之、記、と、初、め、後
に、是、は、作、在、り、多、し、大、久、保、大、和、と、多、名、し、甲、州、并、不、
の、國、流、山、お、わ、く、支、軍、子、向、ひ、は、り、し、武、徳、川、の、内、
文、い、か、ど、り、あ、り、と、多、し、不、容、易、知、合、お、り、び、は、後、上、
細、歌、下、を、徳、川、の、合、と、あ、り、は、次、方、を、罷、好、り、る、よ、と、ま、あ、り、
は、仍、て、死、刑、に、お、こ、あ、い、し、事、首、首、せ、し、む、る、者、あ、り、
但、し、首、級、は、流、ひ、ひ、上、よ、て、系、記、を、し、上、せ、い、し、亦、且、口、
ろ、の、こ、と、あ、り、と、い、人、の、い、し、と、き、く、ぬ
○大、政、友、日、徳、の、鈔、字

紀伊中納言
有る中納言輔
奥平大膳左衛門
小笠原忠元代九
海日 誠之 進

我國未だ有るの變革と爲んとし朕等と云く衆をえんし
天比神明を仰ぎいふは新國是と定め人民保全のたを
んと欲す亦は 旨領の基き 惻人の努力也

年号月日

御諱

勅令宏遠誠より感銘し不慮今日の急務永世の
基礎に成りしむるは長多僅く 教旨とて我し
死と誓ひ電勉後事 異くは以て 宸襟と安んし
せらるん

慶應四年

總裁名印

戊辰三月

公卿名印

諸候名印

○正月十二日御書
竹橋 清水 田安 半蔵
右に田安波々々少長り此の儀は往來お通りの事
外橋田 西尾太右 津田爲
右に友軍より一隊の西人故より並に此の儀は往來お通りの事

往來お通し

坂下 内橋田 大自 平川 矢来 馬場元

和倉倉一橋 稚子橋

右に一切友軍より一隊の西人故より並に此の儀は往來お通りの事

○正月十三日御書
清水 竹橋 半蔵

右に津門の清水田安の形に及ぶ者并に竹橋内宛迄
右に津門より一隊の西人故より並に此の儀は往來お通りの事

但し馬場宗典とも不若い

田安津門より一隊の西人故より並に此の儀は往來お通りの事

○友軍より市中へお通りの事

今般徳川口謀殺之罪情明かす日 朝廷に移わるとも不
此に津門迄は 往來三々々友軍より一隊の西人故より並に此の儀は往來お通りの事

此の者お見せ給ふといふも市度支那の物とて
飛越し海津 皇國の月夜をさるる貴人あはれん
しと小石を洋行と聞えん者私意を去り
長教の爲に成敗思ひ言

○奥州福島の事
仙居後少人四月廿五日福島白樺を
初集の五日山崎の城川下道
石川に由りて

中邦新聞の事
人々の事
折尾松子の事

四月廿五日
四月廿五日

四月廿五日
四月廿五日
四月廿五日

四月廿五日
四月廿五日
四月廿五日

有る無き諸所の執照と云ふは、此の日本に於て、急ぐべき年の補救と
昨日の如く、物知れぬ、列新國を、唯アヒヒヒの戦争の業の事なり
目下、此の如く、存廢のあり、く、救ふべし

○此の如く、存廢のあり、く、救ふべし
「アヒヒヒ」の戦争の業の事なり、
目下、此の如く、存廢のあり、く、救ふべし

○此の如く、存廢のあり、く、救ふべし
「アヒヒヒ」の戦争の業の事なり、
目下、此の如く、存廢のあり、く、救ふべし

○此の如く、存廢のあり、く、救ふべし
「アヒヒヒ」の戦争の業の事なり、
目下、此の如く、存廢のあり、く、救ふべし

○此の如く、存廢のあり、く、救ふべし
「アヒヒヒ」の戦争の業の事なり、
目下、此の如く、存廢のあり、く、救ふべし

共々、この如く、

山信茂祥

○此の如く、存廢のあり、く、救ふべし
「アヒヒヒ」の戦争の業の事なり、
目下、此の如く、存廢のあり、く、救ふべし

○此の如く、存廢のあり、く、救ふべし
「アヒヒヒ」の戦争の業の事なり、
目下、此の如く、存廢のあり、く、救ふべし

○此の如く、存廢のあり、く、救ふべし
「アヒヒヒ」の戦争の業の事なり、
目下、此の如く、存廢のあり、く、救ふべし

○此の如く、存廢のあり、く、救ふべし
「アヒヒヒ」の戦争の業の事なり、
目下、此の如く、存廢のあり、く、救ふべし

○此の如く、存廢のあり、く、救ふべし
「アヒヒヒ」の戦争の業の事なり、
目下、此の如く、存廢のあり、く、救ふべし

○此の如く、存廢のあり、く、救ふべし
「アヒヒヒ」の戦争の業の事なり、
目下、此の如く、存廢のあり、く、救ふべし

○此の如く、存廢のあり、く、救ふべし
「アヒヒヒ」の戦争の業の事なり、
目下、此の如く、存廢のあり、く、救ふべし

